

音響芸術科

サウンドシステム 1

対象	1年次	開講期	後期	区分	必	種別	講義	時間数	30	単位	2	
担当教員	三好・小林			実務経験	有	職種	レコーディングエンジニア					

授業概要

前期に引き続き音という現象について、物理的・経験的に理解する事を目的とする。DAWを使って闇雲に音をいじる事は完成時に取り返しの付かない結果を招くこともある。目的とする音作りへの到達は音の現象を正しく理解し、効率的にパラメーターをいじることによって速度アップが可能となる。そのための音響基礎の理解を目的とする。

到達目標

プロフェッショナル・エンジニアとしての知識を豊富にしていく。近年のデジタル化により音の記録フォーマットも増えているので、これから新しい技術に対応していくためにもアナログ的な基本技術も理解することを目標とする。

授業方法

教科書資料の使用、もしくは適時プリントを配布。自分で完成させるワークタイプの物も配布。講義形式の授業である。前回までの各項目を理解した上で次の次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言の機会もあるので、積極的な参加が望ましい。映像、音響資料も多用する。

成績評価方法

期末試験と課題内容、によって評価する。

履修上の注意

音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

教科書教材

音響映像設備マニュアル（2019年改訂版）

回数	授業計画
第1回	授業内容 音の表現
第2回	音の科学実準備
第3回	

第4回	音の科学実準備発表
第5回	いい音とは? パッチベイ
第6回	エフェクター1
第7回	エフェクター2
第8回	レコードの取り扱い
第9回	エフェクター3
第10回	エフェクター4
第11回	エフェクター5
第12回	ミキシングバランス
第13回	楽器の収音1
第14回	楽器の収音2
第15回	シンセサイザーとMIDI

第16回

全体の確認と頭のなかで関連項目のリンクをさせ、音響やエフェクターについてわかる。